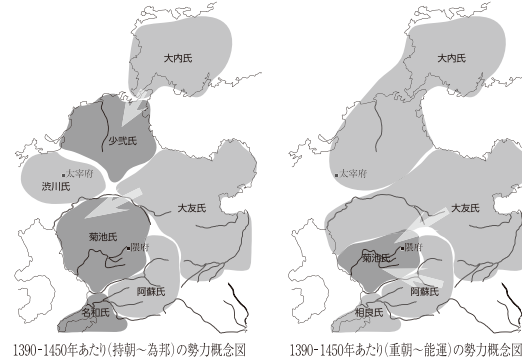




ぶらり歴史散策 第16回 菊池氏の没落と戦国の夜明け



戦国の世に入ると、再び菊池氏で内紛が起きるようになり、領地を狙った相良氏や大友氏、阿蘇氏がこれに介入するようになる。頻繁に謀反が起き、家臣団が重朝の子武包を廃して阿蘇惟長(菊池武経)を菊池の当主として迎えるまでに及びます。

その後武経の横暴な振る舞いに嫌気がさしてきた家臣団は武経を追い出してしまふなど混迷を来します。武経の後継として菊池氏の親族を迎えるなどしますが、結果的には大友氏からの圧力により大友重治を当主として迎えざるを得なくなり、名実ともに大友氏の勢力下に置かれます。

ただ、戦国の世とは奇妙なもので、菊池義武を名乗る大友重治は、大友氏に反旗を翻し独立してしまいます。大内氏や相良氏と手を結び、大友氏に立ち向かいますが、最終的には大友義領(宗麟)の大軍に制圧され、一旦は逃げるものの和睦を口実に豊後に呼び出されたその道中、義領の差し向けた軍に囲まれ自害を余儀なくされ、ここに菊池氏の命運は尽きるのです。

南北朝合一後もなお菊池氏は、幕府に対して反抗的な態度を取り、反幕府の豪族と手を結び幕府方の勢力と対立を続けます。一方で阿蘇氏は蟄打(にじうち)の戦いで南朝方の阿蘇惟武が戦死したことにより、北朝方であった大宮司である阿蘇惟村が肥後守護職を幕府から任じられます。

依然として幕府に反抗的な勢力に対して、幕府方の守護である大内氏、大友氏が菊池氏や小貳氏の所領に対して攻勢を強めていくこととなります。この頃はまだ菊池一族の勢力は衰えの兆しを見せたものの旺盛であり、一進一退の状態が続きます。

ところが、菊池氏の中でも争いが起きるようになり、19代持朝の時には幕府に反抗的な先代を追放し、幕府に対して恭順を示しました。持朝はその後一族の結束を強めるとともに勢力の拡大を画策し、筑後国守護を任じられます。ただ、持朝は38歳という若さで世を去ります。

その子為邦(たもくに)が16歳で家督を継いでしばらくすると、大友氏が筑後半国守護を幕府から任じられます。このことに筑後・肥後の国人衆が反発。これを抑えるために大友氏が度々筑後へ来襲するようになりました。それに對

(御船町文化財保護委員 橋口剛士)

子育て日記



長男・峻 伍くん(4歳)

「毎日が幸せ…♡♡」

4歳のお殿様は甘えん坊の泣き虫さん。まだまだ抱っこが大好きです。パパとお風呂や戦いごっこが日課となり、ばあちゃんのお散歩も大好き。4月から通い始めた幼稚園で、緊張や不安を乗り越えながら色々な経験を重ねて、視野や興味の幅が広がって、日々成長を感じられるようになりました。

帝王切開で生まれた息子。すぐには抱くことが出来ない寂しさに涙することもありました。毎日続く夜泣きには、私も一緒に泣いてしまうことも。元気にすくすく成長している姿を見ると、そんなことも良い思い出です。

息子の笑顔で元気をもらい、かわいい寝顔で癒される幸せな毎日。親になれたことに感謝して泣いて笑って楽しく共に成長していきたいです。

(文・写真／富田典子お母さん・辺田見)

不調を感じたら

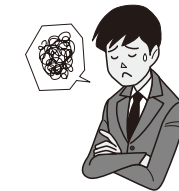
●まずは、休養

無理が続いていると感じたら、それ以上がんばらないこと。意識して「何もしない」こころと身体が休まる時間を持ちましょう。症状が軽ければ、3日ほどの休養で身体の調子が整ってきます。そのままのペースで生活を続けると、こころの不調につながりやすくなります。

休養をとっても、気持ちが落ち込んでいる時はうつ病の初期症状かもしれません…

●サインに気づいたら、精神科または心療内科へ

うつ病と聞くと、「こころの病」というイメージがあるため、「気の持ち方でどうにでもなる」と誤解されがちです。しかし、うつ病による気持ちの落ち込みは、脳の神経伝達物質が正常に働かないために起こります。そこで、伝達物質が正常に働くための薬の服用が効果的です。



*精神科と心療内科

精神科：うつ病をはじめ、神経症などあらゆるこころの病気の診断と治療を行う。
心療内科：こころと身体を一体的なものととらえ、その両面から診断と治療を行う。身体的な症状が強い場合や、軽いうつ病を対象とすることが多い。

再発を防ぐには

●治療と並行して、カウンセリングなどの心理療法を受ける

脳内の神経伝達物質に異常をきたす原因となった要因を振り返るために専門家による心理療法を受けましょう。まずは、かかりつけの先生に相談してみましょう。

『何となく気力がでない』、
『気分が晴れない』と感じたら



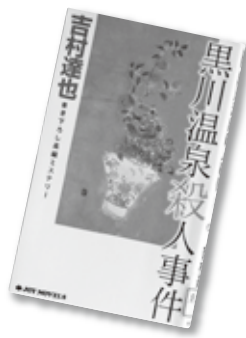
Library Information

町立図書館 カルチャーセンター1F
☎ 282-0888 休館日／毎週月曜日

黒川温泉殺人事件

吉村 達也 著

志垣警部の知人の息子・戸部修太は、三十歳のエリート社員。だが二年前に大きな事故で負傷し、ときどき記憶の途切れることがある。その息子の様子がおかしいと父親から相談を受け、志垣が本人に話を聞くと「九州の黒川温泉で女を殺した気がする」と衝撃の告白!



胡蝶の刃 八丁堀艶風剣

風間 九郎 著

敵は江戸の町に阿片を蔓延させ、幕閣をも取り込んだ陰謀を巡らす清国の武闘集団。そんな中、探索にあたる定廻り同心・志波一郎太は刺客に襲われる。唐渡りの武器・胡蝶刀と乾坤圏の猛攻を受けた一郎太だが、その窮地を救ったのは謎の素浪人だった。



新刊書情報

3月は11冊の本が入りました

●一般書(11冊)

小 説／新任家老 与一郎	(羽太 雄平 著)
小 説／笑う月 極楽安兵衛剣酔記	(鳥羽 亮 著)
小 説／眠たい奴ら	(大沢 在昌 著)
小 説／蜚気楼	(内田 康夫 作)
健康／気功の達人	(現代書林班 文)
社会／5分の使い方で人生は変わる	(小山 竜央 作)

カエルと王かん

なかじま ゆうき：作
山田 真奈美：絵

ある日、カエルのピクトールはぴかぴか光る王かんを見つけました。頭にのせると何だかとてもえらくなった気分。すっかり王様気取りですが……。着想がおもしろい、寓話的な絵本。

